

三土知芳氏

勲二等に叙せられる

元地質調査所長三土知房氏が昭和48年秋の叙勲にさいし勲二等瑞宝章を授与され 11月7日皇居においてその伝達式が行なわれました。衷心よりお祝いを申し上げます。

氏は 昭和2年東京帝国大学を卒業後ただちに地質調査所に奉職され 昭和28年まで同所において 昭和38年まで東京大学工学部教授として その後は石油資源開発株式会社および出光興産株式会社の顧問として おもに石油地質学関係の研究と指導を通じ 関連の官・学・業界の発展と人材の養成に献身されました。その功績には計り知れないものがあります。次に氏の地質調査所における足跡の一端について申し上げたいと思います。

氏は 入所されてまず7万5千分の1地質図幅調査を担当し 昭和6年から同12年までのわずか7年間に「尾道」「八王子」など6図幅を出版し さらにこの間に南関東の第四系について数編の論文を発表しておられます。これらの成果は現在も貴重な文献として広く各方面において利用されていることは特筆すべきことと思います。その後 東北裏日本 サウジアラビア ルーマニア 戦時中には南方地域（インドネシア）等の油田調査を精力的に行ない 多くの業績をあげておられます。氏は これらの成果をもととして今日に至るまで 石油の成因に関する 研究に取組まれ 昭和34年には 代表的論文「石油の移動についての考察——とくに日本の油田に言



三土知房氏

及しつづ……」によって東京大学より理学博士の学位を授与されております。

第2次大戦後は昭和22年に第7代地質調査所長に任ぜられ 同28年職を辞されるまでの6年間余戦後の厳しい情勢下にあつて わが国の経済復興のための基幹資源として 石炭・石油・天然ガス・

金属資源および工業用水等の調査事業を積極的に推進しつつ 戦災によって潰滅的打撃を被った地質調査所の再建に粉骨砕身の努力を重ねられました。この間 昭和23年には工業技術庁の発足に伴ない 当所の機構を抜本的に改革しております。まさに地質調査所の新しい発展の基礎は氏によって築かれたといっても過言ではありません。また 氏は地質調査所の特質として 当所の業務は地球という極めて複雑な自然物を対象としてこれを究明記載することがその基本であること わが国唯一の地質に関する機関として 広くわが国の行政・産業全体および社会にサービスすることが使命であること さらに世界各国が緊密に協力し合い各国の地質を関連づけることによって はじめて地球の成立と歴史を正しく理解することができ 自国の地質や地下資源に対する新たな知識が得られると同時に 国際文化の向上に寄与できることなどを 所の内外に強調されたのも機構改革時であったように思います。この考え方は現在に至るまで当所業務に対する基本姿勢として引きつがれてきており おそらく今後も基本的には変わることはないでしょう。

氏は 現在 出光興産株式会社および石油資源開発株式会社の顧問として活躍しておられます。

ここに今後のご健康を心からお祈り申しあげる次第であります。なお 氏の現住所は次のとおりです。

現住所 東京都世田谷区奥沢1丁目22-10
電話 (03) 720-5055

(文責 佐藤茂)

